



一枚の図表から現状がよう見えてきました



の前、東京でセミナーにでたときのことです。担当の人に、おもしろいパンフレットを見せてもらいました。

「グラフィック 東京の産業と雇用就業二〇一八」というものです。

その中に「日本経済の中心、東京」という図表がありました。これを見ると、東京と地方の関係が、手に取るようにわかる比較になっています。

例えば、資本金一〇億円以上の会社、東京にどのくらいあると思います？

なんと全国の五〇・八%もあるんですね。

つまり、資本金一〇億円以上の会社の半分は東京に集まっています。

さらに外資系企業数にいたっては、七六・三%も東京にあるそうです。

一方で、モノづくりは、どないでしょう。東京は、工場数は全国の七・六%、製造品出荷額等は二・七%に過ぎません。

こう見ると、東京はお金はぎょうさん集まるけど、モノづくりは大してやっていない金融都市、ということですね。

東京の中小企業には、小型の無人深海探査機「江戸っ子1号」や、平昌オリンピックでも取り上げられた「下町ロボスレー」

なんて、マスコミにもようでてた頑張ってる企業やグループもあるように見えるんですね。

結局、富ばかりの一極集中、ということですかね。こんなんでええんですか。日本は。東京ばかり太って……。

もちろん、東京の魅力、さまざまな人が集まって、組織づくりはうまくて、スピードもあることはよう理解してますけど。

モノづくりが少し、おろそかになつてるのやないでしょうか。

モノづくりは技能やなくて 技術が大事なんです

最近、思うんですが、モノづくりは、技能やなくて技術が大仕事なんです。

そもそも技能言うんは、技能オリンピックという大会があるように、テクニクの擦りあわせで、どんなことが、どこまでできるか、ということだと思えます。

一方で、技術言うのは、頭の中にあるデザインを形にする、ということかもしれません。

技能は、それはそれで、すごいことだと思いますし、中小企業のひとつの強味でしょう。

そやけど、技術は、技能は当たり前前に持っていて、それに、



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)

1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。



(写真提供: 株式会社テムザック)



●テムザックの歯科患者シミュレーター

僕の知り合いに、(株)テムザックという会社があります。サービスロボットの開発や製造、それに販売をやっている会社です。小さいけど、そこそそ技術力のある会社です。テムザック中央研究所の所長、中村信さんによれば、テムザックで開発したモノの一つに、歯科患者シミュレーターというロボットがあります。このロボットは、歯科医を目指す学生さんたちのために開発されています。患者シミュレーターは、「痛い」と思ったら首を不意に振ったり、口の中に異物が入ったら、オエツとなる、いわゆる「えづき」までやるそうなんです。「なにやら、えらいマニアックですなあ」と脇で話を聞いて

考えを加えねばなりませんから、大変なんです。それでも、それをせんことには、これからの中小企業は、生きていけないのやありませんか。例えばロボットです。山ほどいろんなタイプがでてますが、極論すれば、つくるのはどこでもつくれます。問題はオンラインワンのものがつくれるかどうか、ということですね。

さて、あの図表で、東京と全国が同じような割合だったのは、中小企業の比率です。全国で九九・七%で、東京は九九%ですから、中小企業は東京でも、全国でも、そう変わりません。中小に勤めている人はどこでも多いんですね。これらの企業のためにも、技術をがんばらんといいません。そやけど、開発するための人材や、お金をどうするか、どこかの会社も頭痛いです。そこで中小企業の力を発揮するために、一社一社が、ばらばらに取り組むのではなく、共同して力を発揮するために、医療コンソーシアムを立ち上げました。これ言うたら、合体ロボットみたいなもんやね。さらに、その応援部隊を大阪につくろう、というのが僕の今の構想です。そのために今、いろいろ仕掛けをしようと思っております。一枚の図表から、日本の現状がよう見えてきました。さて、次どうするか。思案のしどころです。

東京と全国が同じような割合は中小企業の比率です

た東京のおっちゃんが感心してます。この人、へんな趣味でもあるんかいな。こんな邪道の見方はほっといて、使い方の特化したロボットは、大量生産することはないでしょうが、一定の需要はありますから、高価でも売れるに違いありません。